

# 中学・高校時代の母親の言葉かけが女子大学生の 母子関係に与える影響

森下正康  
(児童学科教授)

松山紗也  
(児童学科09期生)

本研究の目的は、中学・高校時代における母親からの日常の言葉かけについて、その特徴を測定する新しい尺度を作成することと、その言葉かけの特徴が母親に対する娘の態度にどのような影響を与えるかを明らかにすることであった。予備調査に基づいて母親の言葉かけに関する新しい質問紙を作成した。女子大学生194名に質問紙調査を行い、中学・高校時代に母親から受けた言葉かけの内容・頻度と、現在の母親に対する態度について測定した。因子分析の結果、母親からの言葉かけについて、「寄り添い」因子と「受容支持」因子、「拒否否定」因子と「突き放し」因子、「なくさめ」因子の5因子が得られた。そこで、各因子に対応する尺度について $\alpha$ 係数を算出し信頼性を確認し、新しい尺度を作成した。母親に対する態度については「母親への反発」「信頼尊敬」「母親への依存」の3因子が得られ、因子に対応する尺度について信頼性を確認した。共分散構造分析の結果、適合性の高いパスモデルが得られた。中学・高校時代の母親からの『受容的な言葉かけ』（「寄り添い」と「受容支持」から成る）は、母親への「信頼尊敬」を高め「親への反発」を低下させていた。他方、『拒否的な言葉かけ』（「拒否否定」と「突き放し」から成る）は、「親への反発」を高め「信頼尊敬」を低下させていた。したがって、中学・高校時代に母親の『受容的な言葉かけ』や『拒否的な言葉かけ』の下で、母親への態度が形成されるということが示唆された。

キーワード：言葉かけ、養育態度、母子関係、信頼関係

## 問題

本研究は、日常生活において中学・高校時代に子どもは母親からどのような言葉かけがなされたか、その特徴を測定する新しい尺度を作成することを第1の目的とした。ふだん母親からの子どもに対する言葉かけにはどのようなものがあるかについて、これまで研究は少ない。小南（2010）は、女子大学生を対象に、小中学生時代の母親からの言葉かけが女子大学生の自尊感情にどのような英挙を与えるかについて研究した。母親からの言葉かけについて新しい質問紙（58項目）を作成して因子分析を行った結果、「肯定」「叱責」「否定」「無関心」に関する4因子が得られた。また、女子大学生を対象にして小学生の頃、自己制御を促進するような母親か

らの言葉かけについての研究では、「自己抑制」「自己主張」「明確さ」「忍耐」を促進するような言葉かけ因子が見いだされた（森下・藤村，2013）。小学生を対象にして、偏食との関連で、母親からの言葉かけについて分析が行われている（森下・藤田，2013a，2013b）。因子分析の結果、一般的な食事場面での言葉かけについては、頑張って食べたね、などの「共感」、ぐずぐずしないで食べなさいなどの「統制」、食べ物に感謝して食べようね、などの「感謝」、お行儀よく食べようね、などの「行儀」に関する因子が得られた。また、嫌いなものを食べない場面での言葉かけについては、好きにしなさいなどの「拒否」、これを食べないと大きくなれないよなどの「誘導」、食べられなくても大

丈夫よなどの「妥協」に関する因子が得られた。これらの因子は子どもの偏食や自尊感情に影響していることが分かった。

中学・高校時代の日常生活において、母親からの言葉かけについてさまざまな場面が想定される。当然、それぞれの場面によって母親の言葉かけの具体的表現は異なる。しかし、場面を超えてその言葉の背景や意味にいくつかの共通の特徴があげられる。従来の研究を参考にすれば、そのような言葉かけは大きく三つのカテゴリーに分けることができるだろう。第1に子どもに対して冷たい拒否的・否定的な言葉かけ（例えば、叱責、非難、無視、拒否、脅し、強制など）、第2に子どもの気持ちに沿った受容的・肯定的な言葉かけ（感謝、なぐさめ、理解、応援、励まし、賞賛など）、第3にその中間にくる受容的でも拒否的でもない言葉かけ（感想、意見、質問、依頼など）、である。

そこで、中学・高校時代の子どもの日常生活を想像しながらいくつかの場面を想定した。予備調査を通じて、各場面において予想される母親からの言葉かけを収集し、さらに各場面において母親からの言葉かけについて上記の3種類に分類してもらった。そのなかから各場面における各カテゴリーにふさわしい言葉かけを選択した。このようにして、選ばれた項目がどのような因子から成るかを確かめ、新しい言葉かけ尺度を作成することとした。

本研究の第2の目的は、中学・高校時代の母親からの言葉かけの特徴が、大学時代における子どもの母親に対する態度にどのような影響を与えるかを明らかにすることであった。親の態度や行動が、子どもの性格にどのような影響を与えるかについての研究は多い（森下、2010）。それに比較して、子どもに対する親の言葉かけの特徴が、親に対する子どもの態度にどのような影響を与えるかに関する研究は少ない。

中学・高校時代の母親からの言葉かけの特徴が、親に対する信頼や反発を生みだし、それがまた母親の言葉かけの特徴に影響していくだろう。このようにして親子の相互作用の特徴が徐々に形成されつつ大学生時代にまで継続して

いくと考えられる。

従来、親子関係において、依存と自立は対立する概念だとみなされた時代があった。しかし現在では、安定した愛着（依存）対象があつて、はじめて自立できると考えられている。乳幼児期の母子関係においても、その後の時期においても他者との愛着関係の成立が自立の基礎と考えられている（高橋、2010；高橋、2013；吉川、2007）。自立（心理的離乳）に関して、西平（1990）の三段階説はよく知られている（大野木、2009）。①第一次心理的離乳：（思春期～青年期中期）子どもが親との依存関係を脱して、親子の絆を壊そうとすることが中心課題となる時期、②第二次心理的離乳：（青年期中期～青年期後期）第一次心理的離乳で得られた自立性によって、子どもが親を客観的に眺め、お互いの関係を自覚的に修復し、親子の絆の再生と強化を行うことが課題となる時期、③第三次心理的離乳（青年期後期以降）：両親から学んだ価値観を超越し、自らの生き方を確立しようとする真の自己実現を目指す段階である。他方、落合（1995）の親子関係の5段階説は、第1段階 子どもを抱え込む親、第2段階 子どもを守る親、第3段階 子どもの成長を遠くにあつて念じる親、第4段階 子どもと手を切る親、第5段階 対等な親子関係、心理的に離乳した関係である。西平の説は子どもが親からどのように自立していくかを示したものであるのに対し、落合の説は親がどのように子どもを自立させていくかという密着から分離への過程を強調している。

二人の説によれば、中学・高校時代（第①段階：思春期～青年期中期）の親は子どもと手を切ろうとする傾向が強く、親からのネガティブな言葉かけは、親子の絆を壊そうと働くと予想される。それが大学生時代（第②、第③段階）では、親子の関係を修復しながら、その絆の再生を図りつつ真の自立の獲得に向かう時期と考えられるだろう。真の自立とは何かという問いと共に、それが環境との相互作用のなかでどのようなメカニズムで形成されるかについては重要な課題である。そのような課題の中で、本研究においては、親からの言葉かけの特徴が、親

に対する信頼や反発などの態度にどのような影響を与えるかというテーマにしぼった。

これまでの研究において、青年は父親に比べて母親からより多くのポジティブな影響を受け、情愛的な絆も強いということが示されている(小高, 2008)。また、母親と娘の密着関係は父親よりも強く、その絆は強いという(船越, 2010)。他方で、父母の関係が父親と母親の態度に影響を与え、それぞれの態度が娘に影響を与えていることも明らかになっている(森下・岸畑, 2011)。そのような中で、本研究においては中学・高校時代の日常生活において子どもへのかかわりの多い母親の言葉かけに焦点を当てた。直接身体的に密着するような乳幼児期の愛着行動とは異なって、中学・高校時代には主として母親との日常的な会話を通じて愛着関係が形成され維持されると考えるからである。

そこで、中学・高校時代の子どもに対する母親からの言葉かけの特徴が、女子大学生の母親との信頼関係や反発心にどのような影響を与えるかを検討することとした。母親からの受容的・肯定的な言葉かけが豊かなほど、子どもからの母親に対する信頼や尊敬が豊かとなるだろう。他方、母親からの拒否的・否定的な言葉かけが多いほど、子どもの反発心を高め母親への信頼や尊敬は形成されない、と予想される。

## 方法

### 1. 調査対象

女子大学生220名を対象に、質問紙調査を実施した。そのうち有効回答がえられた、194名のデータについて分析を行った。その内訳は、女子大学の児童学科学生164名(1回生97, 2回生67), 男女共学の女子学生30名であった。

### 2. 調査期間

2012年7月中旬から下旬

### 3. 言葉かけ質問紙の作成

質問紙作成にあたって、発達心理学専攻の4回生13名の協力のもと予備調査を2回行った。従来の研究のような一般的な言葉かけではなく

て、具体的な場面での言葉かけに焦点を当てた。まず中学・高校時代に比較的誰でもが会おうと考えられる場面を想定した。例えば「テストができなかったとき」「お手伝いしたとき」などの20場面を設定し、そのとき母親はどのような言葉かけをするかを測定することを目的とした。第1回目の予備調査では、日常の生活の場面において母親がどのような言葉かけをするか、思いっくだけ列挙してもらった。その言葉かけについて、同じカテゴリーに属するものをまとめ、一つの生活場面で3~5個の言葉かけ項目を作成した。

2回目の予備調査では、その中から否定的と思われる言葉かけ、中立的(肯定的でも否定的でもない)と思われる言葉かけ、肯定的と思われる言葉かけ、それぞれに-, ±, +の記号をつけてもらった。これらの回答を集計して、最終的に一つの生活場面から-, ±, +, の言葉かけをひとつずつ選びリストを作成した(表1)。実際の質問紙では、回答者に言葉かけのカテゴリーがわからないようにするために、-・±・+の記号を外し、ランダムに項目を配列した。

表1 母親の言葉かけ場面と項目

- |                 |                               |
|-----------------|-------------------------------|
| 1) テストができなかったとき | - : こんな点数でどうするの?              |
|                 | ± : そういうときもあるわよ               |
|                 | + : 次頑張ったらいいよ                 |
| 2) お手伝いしたとき     | - : いつもしてくれたらいいのに             |
|                 | ± : また手伝ってね                   |
|                 | + : ありがとう助かったわ                |
| 3) 勉強のことで質問したとき | - : 授業でやったんでしょ                |
|                 | ± : 忙しいからあとでね                 |
|                 | + : お母さんのわかる範囲でよかったら教えるよ      |
| 4) 進路相談のとき      | - : あなたにはそれは無理じゃない?           |
|                 | ± : お母さんはここにいてほしいな            |
|                 | + : あなたがしたいことなら応援するし、自由に決めなさい |
| 5) 遅刻しそうなとき     | - : みんな早く起きて準備してるのに早くしなさい     |
|                 | ± : ごはんだけは食べなさい               |
|                 | + : 時間は大丈夫??                  |
| 6) 失敗したとき       | - : やっぱり駄目ね                   |
|                 | ± : 今日は運が悪かったのよ               |

- + : 誰だって失敗するよ、気にしないで
- 7) きょうだいげんかしたとき  
 - : いい加減にしないよ  
 ± : 何があったの?  
 + : ちゃんと話し合って解決しなさいよ
- 8) アドバイスを求めるとき  
 - : そんなことお母さんはわからないよ  
 ± : あなたはどう思ってるの?  
 + : お母さんはこう思うよ
- 9) 親に口答えしたとき  
 - : 親にその態度は何なの  
 ± : 素直に聞きなさい  
 + : うんうん、あなたもそんな風に言えるくらい大きくなったのね
- 10) 同じミスをしたとき  
 - : また同じことしてあほやね  
 ± : 次はちゃんとしなさいよ  
 + : こうしたら失敗は減るんじゃない?
- 11) 学校のことや友人関係で悩んだとき  
 - : あなたの学校のことや友達のこととはわからないなあ  
 ± : 学校の先生に相談したら?  
 + : お母さんにもそんなことがあったしそんなに悩まなくてもいいよ
- 12) 好きな人や彼氏ができたとき  
 - : 遊びにうつつ抜かして勉強がおろそかにならないでね  
 ± : どこの人?  
 + : よかったね、応援してるよ
- 13) 遊びにいつ帰りが遅くなったとき  
 - : 何時やと思ってるの?  
 ± : 連絡だけはしなさいよ  
 + : まあ無事やったからいいわ
- 14) 食べ物の好き嫌いをしたとき  
 - : 子どもみたいなこととして  
 ± : 少しでも食べなさい  
 + : おいしいから食べてみたら?
- 15) クラブ活動で結果が出せたとき  
 - : 他の人たちが実力がなかったんじゃない?  
 ± : すごいけどあなたひとりの力じゃないよ  
 + : おめでとう! 応援してきてよかった
- 16) プレゼントをあげたとき  
 - : これじゃないのがほしかったなあ  
 ± : これ高かったんじゃないの?  
 + : うれしいわ、大切にするね
- 17) 習い事をやめるとき  
 - : せっかくつづけたのにもったいない  
 ± : 自分でやめることを言いに行きなさいよ  
 + : あなたが決めたんなら何も言わないよ
- 18) 長期休みの宿題をしてなかったとき  
 - : あとで困るのは自分よ  
 ± : いつかやらないといけないうちだからちゃんと進めなさいよ  
 + : 遊びもいいけどほどほどにね
- 19) クラブで結果が出せなかったとき  
 - : いつまでもくよくよしてないの!  
 ± : 今回は残念やったね  
 + : あなたは頑張っていた、結果だけがすべてじゃないよ
- 20) 父に怒られて励まされるとき  
 - : お父さんが怒るのはも無理ないわ  
 ± : まあ何か飲んで一回落着きなさいよ  
 + : よくそういうことで怒るし、気にしないでいいよ

#### 4. 手続き

女子大学生に対しては、授業の始まる前、もしくは授業が終了した後、調査を実施しその場で回収した。男女共学の女子学生については、サークルの人たちに教室に集合してもらい、調査を実施した。

##### (1) 母親の言葉かけの測定

さまざまな生活場面において、母親（またはそれに代わる養育者）からどのような言葉かけがどの程度行われていたかについて、中学・高校生の頃を思いだして20場面について回答してもらった。各場面において、母親からの言葉かけの3パターンそれぞれについて、4段階評定（0. 全然なかった 1. あまりなかった 2. ときどきあった 3. よくあった）を求めた。

##### (2) 母親に対する態度の測定

母親に対する気持ちや態度について測定するために、小沢（1989）の作成した尺度項目を用いた（表4参照）。この項目内容は母親に対する心理的離乳に関する5因子から成っており、そのうち「親子の対立」「親への甘え」「親への信頼感」「親から子への世代交代」の4因子、30項目を利用した。各項目に対して、現在の自分について6段階評定（0. 全然そうでない 1. そうでない 2. ややそうでない 3. ややその通りだ 4. その通りだ 5. 全くその通り）を求めた。

## 結果

### 1 母親の言葉かけの分析

新しい言葉かけ質問紙を作成したので、どのような因子から成っているかを明らかにするために、因子分析を行った。まず、主成分分析を行い、固有値の変動（スクリープロット）と固有値の分散を参考にして因子数を5と決定した。次に最尤法による因子分析を行い、最終的にプロマックス回転を行った。次に、因子パターンからいずれの因子にも高く負荷していない項目を除いて、再び同じような手続きで因子分析を行った。このようにして2回の因子分析により、5項目を削除して3回目の因子分析を行った。そして、各因子に高く負荷する項目（原則とし



て0.30以上の項目)を、尺度を構成する項目として選出し、項目の素点の和を尺度得点とした。逆転項目は得点の方向を変換した。尺度の信頼性を確認するために $\alpha$ 係数を求めた。

各因子に高く負荷する項目内容(表2)を検討した。第1因子は「何があったの?」「まあ無事だったからいいわ」「今回は残念だったね」などの項目に負荷が高く、子どもに対して共感的で子どもの気持ちに寄り添う「寄り添い」の因子と命名した。第2因子は「やっぱりだめね」「また同じことして馬鹿ね」「いい加減にしない」などの項目に負荷が高く、子どもに対して批判的、拒否的、否定的で「否定拒否」の因子と命名した。第3因子は「あとで困るのは自分よ」「いつかやらないといけないんだからちゃんと進めなさいよ」「何時だと思ってるの?」の項目に負荷が高く、子どもに対して冷たく「突き放し」の因子と命名した。第4因子は「次がんばったらいいよ」「そういうときもあるわよ」「あなたがしたいことなら応援するし自由に決めなさい」などの項目に負荷が高く、「なぐさめ」の因子と命名した。第5因子は「よかったね! 応援してるよ」「嬉しいわ、大切にするね」などの項目に負荷が高く、子どもに対して暖かく「受容支持」の因子と命名した。

表2 母親の言葉かけ因子と項目

第1因子「寄り添い」	
19+	あなたは頑張っていた、結果だけがすべてじゃないよ
20±	まあ何か飲んで一度落ち着きなさい
7±	何があったの?...
5±	ごはんだけは食べなさい
7+	ちゃんと話し合っ解決しなさいよ
13+	まあ無事だったからいいわ
10+	こうしたら失敗は減るんじゃない?
19-	いつまでもくよくよしないの
19±	今回は残念だったね
15+	おめでとう! 応援してきてよかった
20+	よくそういうことで起こるし、気にしないでいいよ
14+	おいしいから食べてみたら?
5+	時間は大丈夫?
2±	また手伝ってね
2+	ありがとう、助かったわ
3+	お母さんのわかる範囲でよかったら教えるよ...
18+	遊びもいろいろけどほどほどにね
16±	これ高かったんじゃないの?

6+	誰だって失敗するよ、気にしないで
6±	今日は運が悪かったのよ
14-	子どもみたいなことして
14±	少しでも食べなさい
17+	あなたが決めたのなら何も言わないよ...
11+	お母さんにもそんなことがあったし、そんなに悩まなくても大丈夫
8±	あなたは どう思ってるの?
第2因子「拒否否定」	
10-	また同じことしてバカね
6-	やっぱり駄目ね
3-	授業でやったんでしょう
7-	いい加減にしない
15-	他の人たちが実力がなかったんじゃない?
9-	親にその態度は何なの
5-	みんなは早く起きて準備してるのに早くしなさい
2-	いつもしてくれたいいのに
8-	そんなことはお母さんはわからないわ...
10±	次はちゃんとしなさいよ...
3±	忙しいからあとでね
9±	素直に聞きなさい
11-	あなたの学校のことや友達の話はよくわからないなあ
15±	すごいけどあなたひとりの力じゃないよ
16-	これじゃないのがほしかったな
18-	あとで困るのは自分よ
17±	自分でやめることを言いに行きなさいよ
4±	お母さんはここに行ってほしいな
第3因子「突き放し」	
18-	あとで困るのは自分よ
18±	いつかやらないといけないのだからちゃんと進めなさいよ...
13-	何時だと思ってるの?
第4因子「なぐさめ」	
1+	次がんばったらいいよ...
1±	そういうときもあるわよ
4+	あなたがしたいことなら応援するし自由に決めなさい
4-	あなたにはそれは無理じゃない?*
1-	こんな点数でどうするの*
第5因子「受容支持」	
12+	よかったね! 応援してるよ
12±	どこの人?
16+	嬉しいわ、大切にするね
13±	連絡だけわしなさいよ

各因子に高く負荷する項目を尺度項目として $\alpha$ 係数を算出した。表3に示すように「寄り添い」「否定拒否」「突き放し」「なぐさめ」尺度の $\alpha$ 係数は比較的高い値を示し、「受容支持」尺度の $\alpha$ 係数は必ずしも高い値とはいえなかったが、今後の分析に使用することとした。

尺度間の相関は、第1尺度「寄り添い」と第5尺度「受容支持」との間にプラスの相関があり、二つの尺度の内容は、子どもに寄り添った受容的な言葉かけの特徴を示していた。第2尺度「否定拒否」と第3尺度「突き放し」の間に

もプラスの相関がみられ、両尺度の内容は子どもに対して冷たい拒否的な言葉かけの特徴を示していた。第4尺度「なぐさめ」は「寄り添い」尺度以外はあまり高い相関はみられなかった。

表3 言葉かけの尺度間相関とα係数

尺度	1	2	3	4	5
1 寄り添い					
2 拒否否定	.193**				
3 突き放し	.241**	.417**			
4 なぐさめ	.316**	-.219**	-.205**		
5 受容支持	.487**	.116	.156*	.170*	
α 係数	.887	.790	.706	.690	.633

\*p<.05, \*\*p<.01

各尺度の度数分布を図1に示す。「寄り添い」「否定拒否」「受容支持」はほぼ正規分布に近かった。「突き放し」「なぐさめ」尺度はやや高得点に偏っていた。

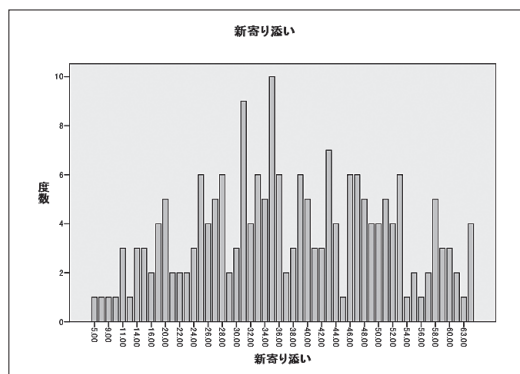


図1-1 「寄り添い」の尺度分布

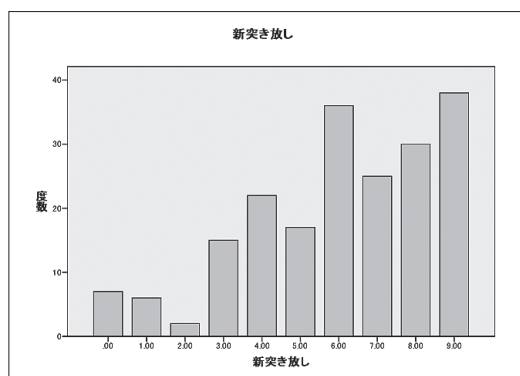


図1-2 「突き放し」の尺度分布

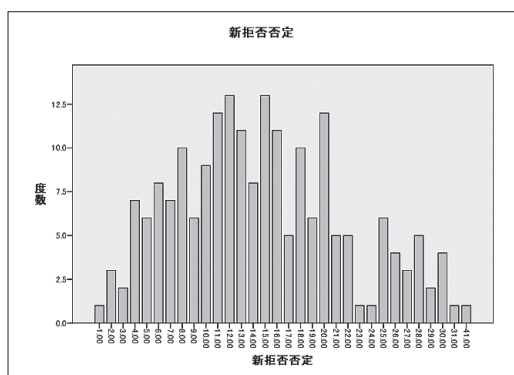


図1-3 「拒否否定」の尺度分布

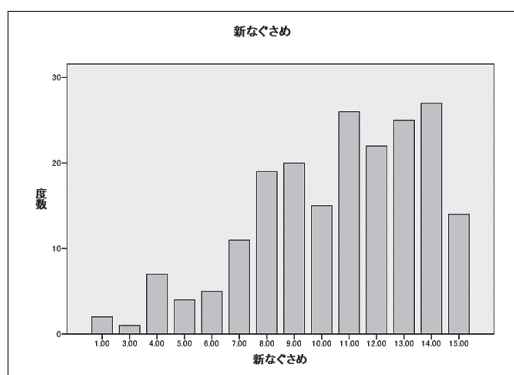


図1-4 「なぐさめ」の尺度分布

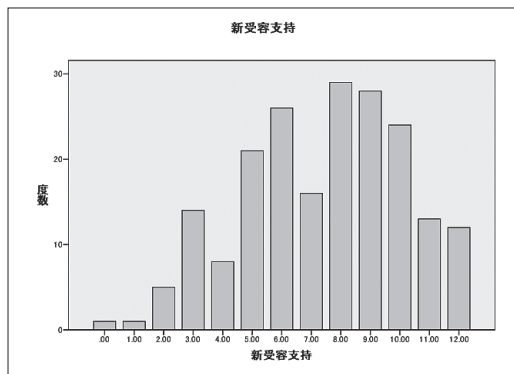


図1-5 「受容支持」の尺度分布

## 2 母親に対する娘の態度の分析

母子関係に関して、同じように因子分析を行ったところ4因子が得られた(表4)。第1因子は「親の態度を押しつけがましいと感じることがある」「親はいちいち私のことに口出しし、嫌だと感じる」と感じる」と「私と親の言う

表4 母親への態度の因子と項目

〈第1因子 親への反発〉	
1	親の態度を押しつけがましいと感じることがある
2	親はいちいち私のことに口出しし、いやだと感じる
3	親の考え方は古いと思う
4	私の意見や考え方が親に伝わらずイライラすることがある
5	親の態度や考え方に幻滅したことがある
6	私と親の言うことはいつも対立する
7	親の言うことも分らないではないが、やはり自分の考え方と違う
8	親は勝手に自分達のことばかり考えている
9	親の存在はしがらみとなって早く振り切ってしまいたいと思う
10	親はこれまで子どもを育ててきても、結局子どもは離れていってしまい、気の毒だがしょうがないと思う
11	自分の進路、生き方などのことで親と対立したことがある
12	世代交代が我が家にもやってくるのを予感するようになった
〈第2因子 信頼尊敬〉	
1	親は生き方の一つのモデルを私に示してくれたと思う
2	自分は母親のような人になりたい
3	やはり重大なことを決める時に最終的に親の意見を受け入れて決定する
4	やっぱり親のことを頼りにしてしまう
5	親は私がぶつかる壁、乗り越えていく壁になってくれていると思う
6	私が何かを決める際、親の意見は十分参考になる
7	親が見守ってくれていると安心する
8	自分の親を見てこの親の子でよかったと思う
9	私と親は互いに信頼し合っていると思う
10	私は親を尊敬する
〈第3因子 親への依存〉	
1	親から突き放されるとショックである
2	いつまでも子どものままでいたい
3	親なしでは生きられないと思う
4	私はまだまだ親から見捨てられたくない

ことはいつも対立する」などの項目に負荷が高く、親の干渉に対する反発や不満を示す「親への反発」の因子と命名した。第2因子は「自分は母親のような人になりたい」「私と親は互いに信頼し合っていると思う」「私は親を尊敬する」などの項目に負荷が高く、親への信頼や尊敬を表しており、「信頼尊敬」の因子と命名した。第3因子は「親から突き放されるとショックである」「いつまでも子どものままでいたい」「親なしでは生きられないと思う」などの項目に負荷が高く、「親への依存」の因子と命名した。第4因子は「やっぱり親も一人の人間だと思

ようになった」「親と私の人生は違う」「親はいつまでも若くないと改めて感じることもある」「親のありがたみを最近感じる」の4項目に負荷が高く、一応「心理的離乳」の因子と命名した。因子に対応する尺度の $\alpha$ 係数は、第4因子(0.477)のみ低く以後の分析では使用しなかった。尺度間の相関は、「信頼尊敬」と「親への依存」の間に高い正の相関があった(表5)。それに対して、両尺度と「親への反発」尺度との間には負の相関がみられた。

母親に対する態度の度数分布について、「親への反発」と「信頼尊敬」尺度は正規分布に近く、「親への依存」はやや高得点に偏っていた。

### 3 母親の言葉かけと母親に対する態度

母親の言葉かけの影響を明らかにするために、言葉かけの5つの特徴と、母親に対する子どもの態度(「親への反発」「信頼尊敬」「親への依存」)との関係についてパス解析を行った。その際、母親に対する子どもの態度の背景に言葉かけ以外の共通する別の要因があると仮定して、母親に対する態度の誤差間に双方向のパスを導入した。そして、母親の言葉かけから母親に対する態度へのパスについて、パス係数の有意でない低いものから一つずつ減らしていった。その結果、比較的適合性の高い図2のようなモデルが得られた。パス係数はすべて5%以下の有意な値を示していた。

「寄り添い」「受容支持」「なぐさめ」の言葉かけがそれぞれ多く、「突き放し」の言葉かけが少ないほど、母親への「信頼尊敬」得点が高かった。さらに、「否定拒否」の言葉かけが多く、「なぐさめ」の言葉かけが少ないほど、「親への反発」得点は高かった。また、「寄り添い」や「なぐさめ」の言葉かけが多いほど「親への依存」得点が高かった。「信頼尊敬」の説明率は40%と高い値であった。

上記のパスモデルよりもより良いモデルを作成するため、共分散構造分析を行った。尺度間の相関を参照して、「寄り添い」と「受容支持」から『受容的な言葉かけ』を表す潜在変数を、また「否定拒否」「突き放し」から『拒否的な

表5 母親への態度の尺度間相関とα係数

尺度	1	2	3
1 親への反発			
2 信頼尊敬	-.380**		
3 親への依存	-.222**	.600**	
α 係数	.871	.895	.773

言葉かけ』を表す潜在変数を導入した。これらの『受容的な言葉かけ』『拒否的な言葉かけ』『なぐさめ』の言葉かけから「親への反発」「信頼尊敬」「親への依存」への影響について、共分散構造分析の結果、適合性の高いモデルが得ら

れた(図3)。パス係数はすべて1%以下の有意な値を示していた。『受容的な言葉かけ』が多く『拒否的な言葉かけ』が少ないほど母親への「信頼尊敬」得点が高かった。その反対に『拒否的な言葉かけ』が多く『受容的な言葉かけ』が少ないほど「親への反発」得点が高かった。さらに『受容的な言葉かけ』は「親への依存」を高めていた。「なぐさめ」の言葉かけからのパス係数は有意な値を示さなかった。親への「信頼尊敬」の説明率は50%、「親への反発」の説明率は38%と図3のパスモデルより高い値を示していた。

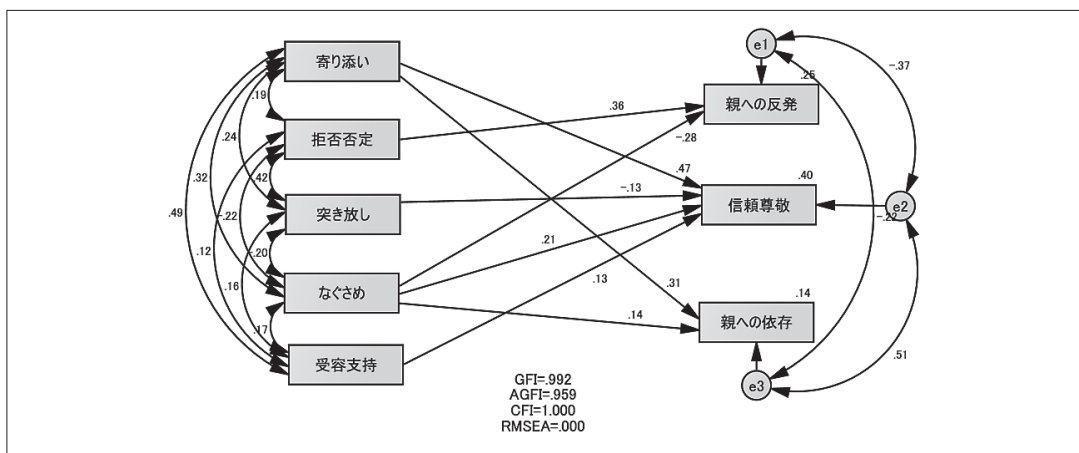


図2 母親の言葉かけが娘の態度に与える影響 (パス解析)

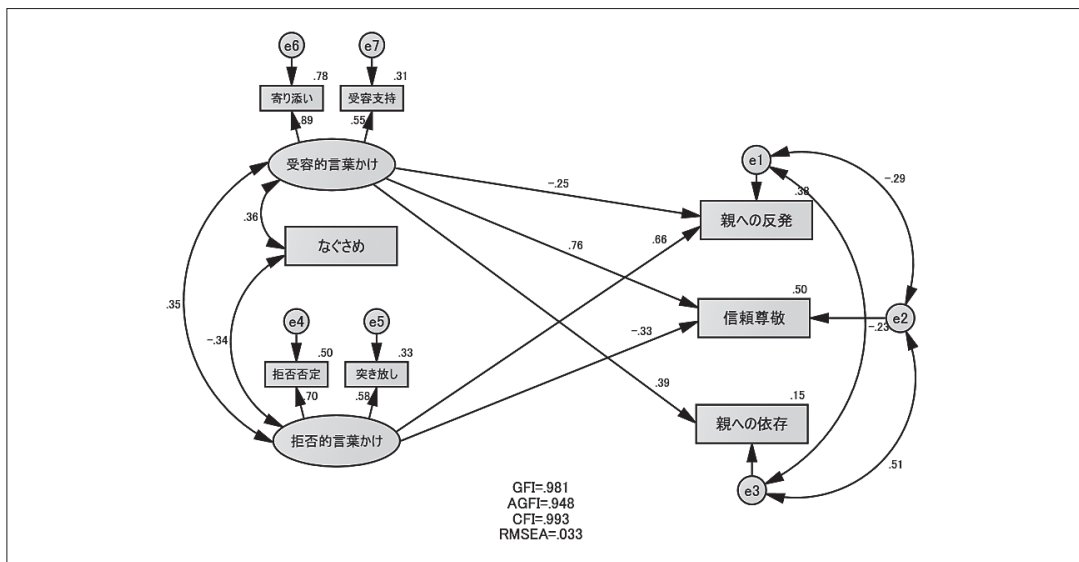


図3 母親の言葉かけが娘の態度に与える影響 (共分散構造分析)



## 考察

### 1. 言葉かけの因子

中学・高校時代の子どもに対する母親からの言葉かけは、「1. 寄り添い」「2. 否定拒否」「3. 突き放し」「4. なぐさめ」「5. 受容支持」の5因子から成っていた。各因子に対応する尺度について $\alpha$ 係数を算出し、ある程度信頼性の高い、新しい言葉かけ尺度を作成することができた。

尺度間の相関は、「寄り添い」と「受容支持」との言葉かけ相互にプラスの相関があり、その背景には、子どもに対する受容的な態度があると考えられる。また、「否定拒否」と「突き放し」の言葉かけの間にもプラスの相関がみられ、そこには子どもに対する拒否的な態度が反映されていると推測される。これらの因子は、共分散構造分析ではそれぞれ『受容的な言葉かけ』、『拒否的な言葉かけ』という二つの潜在変数としてまとまった。中学・高校時代の母親の言葉かけは愛情の次元（受容—拒否）を軸に展開されていると考えられる。ただし本研究においては、『受容的な言葉かけ』と『拒否的な言葉かけ』とは一つの次元の反対方向ではなくて、その間には正の相関がみられた。この結果は受容的な言葉かけや拒否的な言葉かけについて、どちらの言葉かけも多い母親や少ない母親が多くいることを示していた。「なぐさめ」因子は、低いながらも『受容的な言葉かけ』と正の相関が、『拒否的な言葉かけ』とは負の相関がみられた。

### 2. 母子関係の因子

母親に対する子どもの態度については、信頼性の高い3つの因子が得られ、「親への反発」「信頼尊敬」「親への依存」の因子と命名した。第4因子「心理的離乳」に関しては低い信頼性しか得られなかった。また、小沢（1989）の分析結果でみられた「親から子への世代交代」の項目は、一部「親への反発」の中に含まれ独立した因子としては抽出されなかった。また、自立性に関連の深い「心理的離乳」の因子は抽出されたが、尺度としての信頼性が低く分析では使用しなかった。ここで測定された「心理的離

乳」は自立性の一つの側面ではあるが、自立性そのものではないと考えられる。自立性について吟味するには、概念の明確化と測定方法の改善が課題として残されたといえる。

本研究の「信頼尊敬」の因子は、親と自分とは異なった存在だという自覚のもとに、母親への信頼や尊敬と共に母親のようになりたいという願望を持ち、母親を自己のモデルとして位置づける内容である。この「信頼尊敬」は「親への依存」と高い正の相関があり、それとは対照的に「親への反発」とは負の相関がみられた。このような親への信頼尊敬は、自立心を支える基盤と考えられるが、親への依存とあまりに高い相関があった点が注目される。このような母親への「信頼尊敬」と「親への依存」との深い関連は、女子大学生に特有の結果なのか、それとも男子大学生にも共通するものなのか、今後検討の必要があるだろう。

### 3. 母親の言葉かけと母親に対する態度

共分散構造分析の結果、適合性の高いモデルが得られ、次のようなことを示唆していた。中学・高校時代における母親からの『受容的な言葉かけ』（「寄り添い」と「受容支持」因子から構成された潜在変数）は、母親への「信頼尊敬」を高め「親への反発」を低下させていた。他方、『拒否的な言葉かけ』（「拒否否定」と「突き放し」因子から構成された潜在変数）は、「親への反発」を高め「信頼尊敬」を低下させていた。このような言葉かけの、母親に対する「信頼尊敬」の説明率は50%と比較的高いものであった。

このような結果から、子どもは、自分のことをよく理解し寄り添って支えてくれ、自分を愛し応援してくれる、そのような受容的な言葉かけをしてくれる母親に対して信頼や尊敬そして愛情を育むのではないか。そして、そのような母親をモデルとして自己を形成するのではないかと考えられる。その反対に、非難や否定、冷たい突き放しの拒否的な言葉かけをする母親に対して、子どもは反発を高めるだけでなく母親への信頼尊敬を形成できないのではないかと解釈される。

以上のように、中学・高校時代に母親の『受容的な言葉かけ』が多く『拒否的な言葉かけ』が少ないなかで、母親への信頼尊敬が形成されるのではないかということが示唆された。すでに指摘されているように、子どもは否定的な言葉かけであっても、その言葉かけの理由を子どもが肯定的に捉えている場合がある（名取，2007）。また、叱り手である者に良い感情を持っている場合には、その叱り手の意図を善意に解釈していることもある（矢澤，2007）。井上（1975）が指摘するように、親に対する子どもの評価は一般的に「信頼—批判—理解」と発達的に変化する。このようなことから、同じような言葉かけであっても子どもの年齢や母親との関係によって、受け止め方は異なるだろう。したがって、言葉かけの受け止め方は母子関係の特徴の影響を受ける可能性がある。

そのような可能性があるかどうかを吟味するために、本研究のデータについて、現在の母親に対する態度から中学・高校時代の母親の言葉かけの認知へと逆方向からのパスを検討した。しかし、そのようなパスは有意ではなかった。したがって、言葉かけの特徴が親に対する子どもの態度に影響を与えていることが示唆された。このような影響というのは、すでに指摘してきたように、言葉かけそのものの影響というよりは、言葉かけに示される親の態度や感情の影響ではないかと考える（森下・藤田，2012b）。

今後の課題として、中学・高校時代の親の言葉かけについて測定したが、データは回想法によるものであったので、事実を反映しているかどうかという問題が残る。したがって、母親自身の評定も必要だろう。女子学生ではなくて男子大学生が研究対象の場合かどうか、さらに対象の年齢によってどのような結果が得られるかなど、検討課題が残されている。また、母親の言葉かけや母親との関係に限定しないで、父親の言葉かけなど幅広い研究が必要である。

#### 引用文献

船越かほる（2010）. 青年期後期～前成人期の移行期における母娘密着とアイデンティティ発

- 達. 日本女子大学大学院人間社会研究科紀要, 16, 101-111.
- 井上健治（1975）. 独立への欲求とおとなに対する抵抗. 井上健治・柏木恵子・古沢頼雄・（編）青年心理学—現代に生きる青年像. 有斐閣, p. 235-250.
- 小高 恵（2008）. 青年の親への態度についての発達の变化：心理的離乳過程のモデルの提案. 太成学院大学紀要, 10, 31-48.
- 小南早苗（2010）. 子どもの頃の母親の言葉かけと自尊感情の形成について. 京都女子大発達教育学部児童学科卒業論文（未刊）.
- 森下正康（2010）. 児童の心理—パーソナリティ発達と不適応行動—. サイエンス社.
- 森下正康・岸畑あゆみ（2011）. 両親間の絆や不和が女子大学生の自尊感情と無力感におよぼす影響. 京都女子大学発達教育学部紀要, 4, 57-68.
- 森下正康・藤村あずさ（2013）. 小学生の頃からの言葉かけが女子大学生の自己制御機能の発達に与える影響. 京都女子大学発達教育学部紀要, 9, 125-134.
- 森下正康・藤田のゆり（2012a）. 食卓の雰囲気と母親の言葉かけの特徴が児童の偏食におよぼす影響. 京都女子大学発達教育学部紀要, 8, 117-125.
- 森下正康・藤田のゆり（2012b）. 母親の言葉かけの特徴と食卓の雰囲気が児童の自尊感情と他者受容におよぼす影響. 京都女子大学発達教育学部紀要, 8, 117-125.
- 名取洋典（2007）. 指導者のことばがけが少年サッカー競技者の「やる気」におよぼす影響. 教育心理学研究, 55, 244-254.
- 西平直喜（1990）. 成人になること—生育心理学から—. 東京大学出版会.
- 大野木裕明（2009）. 女子青年からみた親子間の呼称と心理的離乳. 仁愛大学紀要人間生活学部編, 1, 53-61.
- 落合義之（1995）. 心理的離乳への5段階過程仮説. 筑波大学心理学研究, 17, 51-59.
- 小沢一任・湯沢理恵子（1989）. 青年期の心理的離乳と同一性—心理的離乳尺度の作成と同一性地位との関連—. 帝京学院研究紀要, 3, 63-74.
- 高橋恵子（2010）. 人間下院系の心理学—愛情のネットワークの生涯発達—. 東京大学出版会.
- 高橋恵子（2013）. 絆の構造—依存と自立の心理学—. 講談社現代新書.
- 矢澤久司（2007）. 指導者の言葉かけが子どものやる気と認知に及ぼす影響. 東海学院大学紀要, 1, 211-217.
- 吉川成司（2007）. 生涯発達における自立と孤立：愛着理論の視点から. 教育学部論集, 58, 27-44.